

# 考人



## 図書館だより愛称 「考人」について

図書部

皆さんには玉名高校前庭池東側に「考える人」像があるのを知っていますか？ぜひ实物を見てみてください。

本校の『図書館だより』の愛称は「考人」です。この愛称は、右記のロダンの彫刻「考える人」にちなみ、平成二年に決定しました。玉名高校の知力の象徴・拠点としての図書館のイメージと、彫刻が学校にできたりきが由来となります。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ロダンの「考える人」像が完成したのは一九五八年のこと。今から六十年前です。

「玉名高校百年史 下」一七一ページに次のように記載されています。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ロダンの「考える人」像が前庭池の東側に完成し除幕式がおこなわれたのは昭和三三年二月八日のことであった。昭和三二年当時三年生であつた宗正和之君が不治の病のため他界し、御遺族から最後にお世話をなつた学校へ何か残し

「考える人」はダンテが扉の前で岩に腰を下ろ

たいという話があつた。相談を受けた担任の春川先生は、御遺族の気持ちを汲んでいろいろと考えた末に、柳川在住の彫刻家富重正男氏（東京美術学校出身）に相談された。宗正君のお母さんの気持ちに感激され、学校を見てから考えてみようということで、数日後に来校の上校舎、前庭のすばらしさに心を惹かれた富重氏は、前庭の一角にロダンの「考える人」の像を立てたらどうかという案を示された。費用の点が問題になつたが「御遺族の寄附で足りない分は、お母さんの気持にこたえるために私が奉仕します」という制作者の話であった。最初の職員会議では、卒業生が前庭に対していだいているイメージがこわれるのではないか、あまり目立たぬ所に置いてはどうか等種々の意見があつたが、結局現在の場所に落ち着いた。できあがつて周囲とマッチしない時は別の場所に移すという条件がつけられていたという。富重氏は「考える人」像の建立が決まるとき、京都の博物館にある本物のロダン像を数度にわたつて見に行かれ制作の資料とされた。前庭池の東側に実物大の白色セメント造りのロダン像が完成し、全校生徒、職員、御遺族参列のもとに除幕式がおこなわれた。後に完成した金栗四三氏の走る銅像と池をはさんで好一対をなし、今では生徒達に知力と体力の大切さを考えさせる一つのよすがとなつている。

ロダンの「考える人」像が前庭池の東側に完成し除幕式がおこなわれたのは昭和三三年二月八日のことであった。昭和三二年当時三年生であつた宗正和之君が不治の病のため他界し、御遺族から最後にお世話をなつた学校へ何か残し

し、詩想にふけつてゐる姿です。もともとは「地獄の門」の一部であつた像を独立した像として取り出して作品化してあります。拳を歯に当てて思索する姿は人類共通の普遍的な人間像を示しています。「考える人」像がある高校は他にあまりないでしょう。玉名高校生が思索する姿を象徴しているとも考えることができます。

この彫刻にちなみ、図書館が玉名高校生の思考の礎になることを願つています。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

「新米です。よろしくお願ひします！」

図書部長 井上 裕子